

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700067		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコート天王台		
所在地	千葉県我孫子市柴崎台3-9-19		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果市町村受理日	平成23年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12		
訪問調査日	平成23年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まず、法人が掲げている社は「お客様、ご家族、地域の健やかな暮らしに貢献する」を全員が念頭に置き毎日行動できるように努めています。その上で事業所が掲げるスローガン「あなたの心を感じられる私たちがでよう。そして、もう一つの我が家を作ろう」の実現を目指し、お客様の安全で安心した暮らしを提供し続けるだけではなく、ご家族の相談や悩みを受止め、地域の中での役割を認識し、この地区に貢献できるようにしてい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームでは「もう一つの我が家を作ろう」をスローガンに掲げ、職員が一丸となり取り組んでいる。今年度は、職員の安定も図られ、特に新卒者の採用も安定し、利用者とも馴染みの関係が構築できている。この1年、毎月のヘルパー会議の開催、ホーム内研修の開催に力を入れて取り組み、感染症防止に関する理解や虐待や身体拘束がなげいけな事なのかの理解が各職員に深まってきている。今後に向けては、定期的な防災訓練の実施を通じ、利用者が安全に避難できる体制の構築、地域に対し存在感を上げていくことを視野に入れ、地域密着型サービスとしてさらなる前進が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたの心を感じられる私たちでいよう。そしてみんなのもう一つの我が家をつくろう」の中にある、「もう一つの我が家」をモットーにその実現を目指している。	当ホームでは、「もう一つの我が家」をモットーに掲げ、採用面接時、年度当初のヘルパー会議時に職員に周知を図り、全職員がモットーを理解し、「もう一つの我が家」の実現に向け、一丸となり取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩などの外出の際は、近隣住民の方と挨拶をしたり、近隣小学校との交流(職場体験の受入れや特別授業への参加)を実施している。	地域とのつきあいに関しては、近隣小学校からの職場体験の受け入れのほか、特別授業への参加を通じ交流が図られている。また、地域に対して「介護相談」を承る旨を事業所内に掲示し、地域の方からの相談に応じる体制を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年、運営推進会議において参加したご家族に対して「認知症のケア」について議題にした。また、「職場体験」において来所した児童には実際に触れ合っただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	個別のケア事例を議題にし、必要に応じたご家族の支援について依頼をし実践いただいた。また、入居前の生活について改めてヒヤリングを実施し現場のケアに取り入れた。	運営推進会議には、民生委員、地域包括支援センター、在宅支援介護支援センター、市の介護支援課、小学校校長、家族等が参加をし、2か月に一度定期的実施している。会議での意見交換を通じ、サービス向上につなげていけるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特別にはおこなっていませんが、今後は市役所との交流を積極的に行ないサービスの質の向上に取り組んでいきたいと考えております。	市の担当課との連携に関しては、運営推進会議内において、意見交換を行うほか、事業所内における介護予防教室の受け入れ、地域包括支援センター立ち上げに向けての意見交換など、互いに連携を図り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を実施し「身体拘束の正しい知識」の習得には努めております。また、玄関の施錠も時間を決めて開場するようにしていきます。	事業所内の研修を通じ、身体拘束の正しい知識に関して職員に周知している。事業所内には「身体拘束に対する理念及び方針」を掲示しているほか、玄関の施錠に関しても、時間を決めて開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を実施し「高齢者虐待の正しい知識」の習得には努めております。その中において「虐待を見抜く」ことも研修項目としております。		

グループホームガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通じて、学ぶ機会を今後も持っていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を多くとって、ゆっくりと、わかりやすく、途中で質問を受けたりして説明をし理解を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族にはこちらから積極的に話しかけ、意見交換や要望、質問を受ける機会を作っております。	事業所内外の苦情窓口に関しては、重要事項説明書に明記し、契約時家族に伝えている。意見や要望に関しては、家族面会時に収集するほか、法人本部からの顧客満足度調査の実施において、家族が意見を表出できる機会を確保している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時に設けています。また、日々の申し送り等でも設けています。	職員からの意見に関しては、毎月のヘルパー会議時を通じて収集している。また、何か困ったことや相談事が生じた際には、管理者、ケアマネジャーが個別に相談に乗り、職員の悩みや不安が早期に解決できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を3ヶ月～4ヶ月に1度設定し、個々に、相談、悩みを聞き、今後の目標なども話し合いながら向上心が持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティング時に実技研修を取り入れ、皆で資料などを見ながら研修をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型事業者との連絡会には積極的に参加し、意見や事例を共有し質の向上に努めております。		

グループホームガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には、十分に注意を払い、状況の変化を常に把握し、本人とのコミュニケーションを図り、理解するよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は、ご本人様の様子を常に連絡を取り合い、少しでも安心されるようにしています。又、ご家族からも遠慮なく、何でも相談下さるよう声を掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、福祉用具の提案や介護方法等をお伝えしたり、必要としていることを見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者と触れ合いながら、色々な事を入居者より教えて頂くことも多々あり、とても勉強になることもよくあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、職員はご家族と良く話しをするようにしています。その会話の中から、ご本人をケアしていく上での、色々な情報を得ることが出来ています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にもご協力して頂き、外出し、思い出の場所へ行かれたり、親友や親戚などが来所して下さったり出来る中で支援しています。	これまで大切にしてきた、馴染みの人や場との関係が継続できるように、家族の協力を得て、近隣までドライブなどに出かけたり、親友や親戚の方の来所も受け入れ、これまでの関係の継続に向けた支援が図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わり合っている時には、そっと見守るケアを進め、孤立する入居者がいる時には、職員が声を掛け、孤立しないよう努めています。又、できるだけリビングなどで過ごしていただき入居者同士が自由に会話できるようにしています。		

グループホームガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かありましたら、いつでも連絡を頂けるよう声を掛け話しをします。又、外などでお会いした時にはご挨拶をしながら、最近の状況など話しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買物の希望、レクの希望、家事の希望等、まず、ご本人の意思を第一に考え、検討しながら進めています。	利用者の思いや意向に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時におけるアセスメントにおいて、利用者、家族の要望のほか、現状の課題やニーズに関しても抽出し、抽出した内容をケアプランに反映し、日々の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職歴や家族構成、ご本人の性格などを聞きながら、出来る限り馴染みの物を用意して頂き、以前のサービス利用の経過など事業所などに聞いたりして把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、ご本人の観察や見守りを重視し、変化などに注意を払い、申し送り時にはその内容など、皆で状況を把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直しています。又、問題等が発生した時には、それ以外でも、必要に応じて作成しています。その内容にはご家族の意見も聞き入れ、理解を得ています。	ケアプラン作成に関しては、アセスメントで抽出した課題に基づき、担当者会議を開催し、家族、職員からの意見を収集し、総合的な意見を踏まえたうえで作成される。ケアプランの進捗状況に関してはモニタリングにおいて確認している。	ケアプランの見直しは定期的実施されているが、今後に向けては、ケアプランの見直しの時期について、プランの中に明記することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化が生じた時には、常に、個人記録に残すようにしています。そして、介護計画の見直し時に参考にしていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な相談に対して、柔軟に対応出来るよう心掛けています。		

グループホームガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の同好会、小学校などとの交流はありますが、その他との交流、協力は今後行なっていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向をまず大切に、納得した中で、利用して頂いております。医療機関も柔軟な対応をして頂いています。	利用者が適切な医療を受けられる体制として、提携先医療機関による往診を実施している。担当医とも24時間連絡が可能であり、必要時及び緊急時において迅速な対応が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬の管理や医療機関との相談や日々の入居者の健康チェック等を行なって相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、ソーシャルワーカーとの連携を図りながら、主治医に相談をし、又、ご本人と面談させて頂き、状況の把握を行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医療と常に連携をとりながら、状況に合わせた援助計画を作成し、医療情報をケアするスタッフや家族に情報を流し、情報を共有し合いケアします。	重度化や終末期に向けた方針に関しては、できる限り早い段階(契約時)から、事業所としてできる事を家族に説明している。重度化がみられた際には、家族や主治医と常に連携を図り対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所の定期的な会議の場において、研修を実施したり、他事業所で起きた事例を検討したりし急変時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	座学において非難の仕方や避難経路、広域避難場所確認などを行っております。平成23年4月に総合防災訓練を計画しております。	災害時に備えた避難訓練に関しては、ヘルパー会議の中で避難経路の確認、避難方法、広域避難場所の確認を行っている。地域との協力関係に関しても、運営推進会議を通じて、協力を依頼している。	今後に向けては、定期的な防災訓練の実施を図り、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけることができるよう取り組まれることに期待したい。

グループホームガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様お一人おひとりの人格の尊重はとても大切なことと全員に認識を徹底しております。言葉遣いなどはお客様の気持ちを基準に対応しています。	利用者一人ひとりのプライバシーの確保に向け、年度初めのヘルパー会議において、「利用者の尊重」を改めて振り返りを図ると共に、利用者への声かけに関しても、不適切な発言が生じないように、日頃から注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間によりやることを出来るだけ制限しないように一日のスケジュールを立て、本人の思いに柔軟に対応できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間によりやることを出来るだけ制限しないように一日のスケジュールを立て、本人の思いに柔軟に対応できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用しています。ご本人の好みを聞いたりしながら、お洒落を楽しんで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりたたみや、食器拭き、お茶いれなど、個々の残存能力に合わせ、出来る中で実施しています。	食事に関する一連の作業では、おしぼりをたたんだり、野菜の皮むきなど、利用者の状態を考慮しながら、一緒に取り組めるよう支援している。楽しみにつなげる支援としては、お花見ではお弁当を作って出かけたり、日々のメニューには季節感を感じられるものを加えるなど工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は個人記録にて管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人個人の状態に合わせた口腔ケアを実施しています。		

グループホームガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見ながらトイレへの誘導を実施しています。排泄のパターンを知るためにも、個人日誌への記入もしています。又、夜間にトイレに行けない方などは、居室内にポータブルトイレを置き排泄しています。	利用者の排泄状況に関しては、個人記録内の排泄チェック欄に記録し、職員間で情報を共有している。排泄時は、定時の声かけや誘導により、トイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェック表を記入し状態の把握をしております。また食材や水分補給、状況に応じて医師との連携を図ります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康管理面から概ねの日程は決めていますがご本人の希望を最優先し実施しています。	入浴に関しては、概ねの日程は決まっているが、利用者の要望に沿って入浴できるように支援している。入浴中は職員も介助に入り、安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望を最優先にしスケジュール化することはありません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は管理者と現場スタッフの複数にて実施しております。またそれぞれの目的・副作用・用法は理解し状態の変化を報告できる状況は出来ております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中、出来る限りお散歩を取り入れていきます。又、雨天時など個々の好みや力に合わせたレクなど、職員と一緒にこなしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	常に、外出はケアの中に入れ、少しでも多くの外出が出来るよう、職員一同取り組んでいます。	外出活動に関しては、公園でのお花見や日曜日を利用して、近隣へのドライブなど、戸外に出かけられるよう支援している。また、利用者の要望に応じて個別で外出できるように支援する等、戸外活動の充実に向け前向きに取り組んでいる。	

グループホームガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今のところ、お小遣いの管理は事務所で一括しており、一人ひとりの要望にあわせこちらで買物を行なっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやりとりの希望が出た時には対応をしています。又、お手紙は、こちらから出すより、友達や親戚から手紙が届き、とても喜ばれていることが多くあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけを行ない、食堂にはソファやTVなどを置き、くつろぎやすい空間作りをしています。出来る限り、家庭的な雰囲気づくりを心掛けています。	ホーム内は、バリアフリー設計であるほか、トイレや浴室、廊下等にも転倒の危険となるものは放置せず、安全面に配慮している。利用者が集うリビングスペースには、ソファを設置しくつろげる空間を確保するほか、窓からの日差しに関しても、ブラインドで調整が図れるよう配慮している	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやリビングを活用できています。ご本人のペースで自由に過ごして頂くよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご家族に対して出来る限り、今まで使い慣れた物を持ち込んで頂くよう、声を掛け、協力を頂いています。	居室内には、自宅で使い慣れた物の持ち込みを可能とし、居心地良く生活できるよう配慮している。家具類の配置に関しても、利用者、家族の要望を踏まえている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のペースに合わせた支援を心掛け、入居者1人1人を良く知り、残存機能を活かしたケアを心掛けています。		